

特色ある大和茶の高品質化

要約

- 現在の主力品種に代わる品種への需要の高まりに対応するための改植推進
- 品質向上に寄与する点滴灌漑施設や改修や耕作放棄茶園の解消
- 首都圏消費者への大和茶の認知度向上

現状(背景)と課題

- ‘さやまかおり’ の価格低迷(栽培面積 40ha:H29)
- ‘やぶきた’ 中心の品種構成(栽培面積 550ha:H29)
- 点滴灌漑設備の老朽化
- 耕作放棄茶園の増加
- 首都圏で大和茶の認知度不足

目標

- 新品種への改植面積
60a→270a
- 点滴灌漑施設の更新に向けた手法の確立
新たな設備操作管理マニュアル作成
- 耕作放棄園地解消面積
62a→113.2a
- 特色ある大和茶製品 PR 商品件数
0件→2件

活動内容

- ‘さやまかおり’、‘やぶきた’ に代わる優良品種の導入
- 点滴灌漑設備のメンテナンス性向上
- 耕作放棄茶園の解消
- 首都圏消費者への大和茶の認知度向上

成果

- 有望2品種への改植面積は200aとなった。品評会でも高い評価を得た。
- 試験導入した点滴灌漑設備で計画通りの肥培管理ができることを確認。
- 耕作放棄地24aを解消。解消した圃場は3年目から収穫できる見込み。
- 4商品のテスト販売を東京で行い、結果を受けて今年度に商品のブラッシュアップを実施。現在2商品が東京のデパートで販売されている他、7道府県で販売されている。



有望新品種 ‘せいぬい’



ブラッシュアップされた商品

北部農業振興事務所農業振興課
担当：農産物ブランド推進第二係
小野大吾・姫野孝彰
リーディング品目支援事業
(高級大和茶生産販売促進事業)

普及活動のポイント

- ・実証圃を設置することにより、新品種の圃場での生育状況を調査。
- ・現状、海外製品を使用している点滴灌漑設備について、安価でトラブル対応もしやすい国内製代替機導入を検討。
- ・首都圏での認知度向上に向けたイベントへの出展、商品開発コンサルタントによる改善指導。

対象の変化

- ・有望品種である‘きらり31’、‘せいめい’を導入する生産者が増加。
- ・故障時の対応が早急にできたこと、計画通りの肥培管理ができたことから各農家が代替機を高く評価。
- ・商品のブラッシュアップに加え、ホームページの見直し、ポップの改善等への取り組み。

対象者からのコメント

- ・今後も大和茶周知に向けた取組の継続をお願いしたい。

これからの活動ビジョン

- ・新品種への改植については、一定の評価を受けたことから引き続き面積拡大に向けた推進を行う。
- ・点滴灌漑設備のメンテナンス性向上については、更新機種種の導入・管理マニュアルを作成し、個々で導入・維持管理が行えるよう進めていく。
- ・耕作放棄地の解消については、解消後の栽培方法などのマニュアル化を実施する。
- ・特色ある大和茶製品の推進については、関係課とも連携しながら、更なる商品化を行い、大消費地へ向けてアピールを行っていく。

活動体制

